

## 機構内研究会報告

日時： 平成25年7月23日（火）14:00-17:00  
会場： 竹橋オフィス 1112 会議室  
参加者： 機構教職員等 26 名（講演者含む）  
進行： 土屋研究開発部教授  
講演者： Helka Kekäläinen フィンランド高等教育評価カウンシル事務局長  
Dan Derricott リンカン大学学生参画オフィサー  
Nik Heerens エクセター大学 PhD 研究員  
趣旨： 大学評価フォーラム（7月22日開催）における議論の論点を深めるとともに、欧州における質保証の取り組みについて、とくに学生参画を中心に、ディスカッションを行う。

概要：

### 1. 趣旨説明、フォローアップ

初めに土屋教授より簡単な趣旨説明があった後、前日の大学評価フォーラムについて講演者3名への質疑が募られた（質問なし）。

### 2. 講演（Helka Kekäläinen 氏）

「フィンランド高等教育評価カウンシルにおける質保証活動について」

Kekäläinen 氏から、フィンランド高等教育評価カウンシル（FINHEEC）の概要と役割、さらには FINHEEC の行うオーディットについての講演があった。

#### (1) FINHEEC の概要・役割

- ✓ FINHEEC は 1996 年に、政府から独立した高等教育評価の専門家団体として設立
- ✓ 欧州高等教育質保証機関協会（ENQA）正会員、欧州質保証登録簿登録済み
- ✓ 評価事業として、オーディットおよびテーマ/プログラム/分野別評価を行う
- ✓ FINHEEC は、組織統合のため、2014 年よりフィンランド教育カウンシル（FINEEC）となり、評価対象が幼児教育から高等教育までに拡大される
- ✓ FINEEC への統合で、スタッフ数は 11→40 名へ増加予定

#### (2) オーディット

- ✓ オーディットの目的：
  - ・ 高等教育機関の質保証体制の確認と評価
  - ・ 高等教育機関への質に対する取組みについての支援
  - ・ 高等教育機関の活動の質の向上と改善
- ✓ オーディットの概要：
  - ・ 第1サイクルとして 1996-2011 年に実施。第2サイクルは 2012-2018 年

- オーディットの基準となる target は、以下の6項目—スライド p.12 参照
  1. 質に関するポリシー
  2. 戦略と運営上の管理
  3. 質を考慮するための制度設計
  4. 基本的活動における質の管理
    - i. 学位教育（3サイクル制）
    - ii. 研究開発とイノベーション、芸術活動
    - iii. 社会への影響と地域活性化
    - iv. 選択オーディット基準
  5. 学位教育の事例：学位プログラム
  6. 質を考慮する制度全般
- 評価指標（criteria）として、absent/emerging/developing/advanced の4段階を基準毎に用いる—スライド p.13 参照
- 最終的にオーディットに合格した機関には、6年間有効のラベル（下図）が与えられる

図：FINHEEC オーディットラベル



- 第1サイクルから第2サイクルへの移行に伴う変更点；
  - ➔ 選択オーディット基準(optional audit target)の導入
    - ◇ 各教育機関が、戦略上の中心であり今後の発展に欠かせない要素を選択オーディット基準として設定
    - ◇ 選択基準の評価結果はオーディットの合否には影響しないが、オーディット合格証書に内容が盛り込まれる
    - ◇ 実績例：「学生を含んだ評価チーム」「学習成果」「持続可能な開発」「国際化」
  - ➔ 自己評価プロセスの強調
  - ➔ 学位教育の質保証に関する詳細な根拠の要求
  - ➔ 評価指標の透明性と分かりやすさの追求
- オーディットに合格するには；
  - ➔ 全ての基準において absent 評価を受けておらず、
  - ➔ 基準6「質を考慮する制度全般」については、developing 以上の評価を受けている必要がある
- 再オーディットの場合は、再オーディットの対象となる重点基準も示される

続いて質疑応答が行われた。その内容は以下のとおり。

Q：オーディットの基準はどのようにして設定されたのか。

A：2003年からのボローニャプロセスへの順応に合わせ、フィンランド教育文化省の協力によるワーキンググループ（WG）が立ち上げられた。WGでの議論の結果、オーディットによる評価モデルが作られ、FINHEECが立ち上げられた。FINHEECではタスクグループによって基準の原案が作成され、全国的なセミナーでの議論の結果、高等教育機関の全ての活動を対象とすることにした。その後2つのパイロット調査を行い、評価モデルが確定された。このモデルを用い第1サイクル評価を実施。一方、サイクル中盤より基準の改正作業が行われ、再度の全国的セミナーを経て、第2サイクルから新基準が採用され今に至っている。

Q：オーディット基準の中（4-ii）に「研究」が含まれているが、Academy of Finlandの研究評価との違いは何か。

A：Academyでは、申請に基づく助成金分配のための研究評価と、フィンランドにおける研究の質評価を行っている。

助成金についてだが、助成は研究グループ単位で行われるのだが、たいていの場合その集団は同一組織内である。これとは別に、教育文化省は機関別のパフォーマンス評価をもとにした助成を行っており、その評価対象の中には研究も含まれている。

FINHEECは、質保証プロセスの一環として、研究の質向上のために評価を行っている。また、FINHEECによるテーマ別評価として博士課程評価が実施され、その3年後にフォローアップ調査がされたこともある。

Q：第1サイクルの再オーディットを通らなかった大学はどうなったのか。

A：再オーディットに通らないということは、FINHEECのオーディットラベルが貼られないということだけであり、現在の制度では、大学運営にそれ以上の影響はない。

Q：日本の大学との国境を越えた教育を実施する場合、日本のパートナー大学の日本での評価結果は参考にするのか。

A：おそらくそうなると思う。パートナー大学の所属国での評価結果を参照することは、これからさらに常識となっていくだろう。

Q：①オーディット基準5「学位教育サンプル：学位プログラム」と、②第2サイクルで追加された「学位教育における質保証の証拠」とは、それぞれどのようなものか。

A：①はプログラムの概要の観点から評価を行う。対して、欧州では多くの国でプログラム評価を行っていることから、②が追加され、大学が選んだ2プログラムと評価パネルが選んだ1プログラムについて、詳細に審査しフィードバックしている。

Q：テーマ別評価でフィンランドの国際的学位プログラムが取り上げられたそうだが、具体的にどのようなものか。これは、国境を越えた教育も含んだのか。また、エラスムス・スミンドゥスプログラム等も含んだのか。

A：これまで国内の英語による学位プログラムは、どのぐらいの数が行われているのか不明だった。そのため、このテーマ別評価を通じ、全体を把握することにした。プログラムの数、分野、相手国等のデータを集め、実際にどういったことが行われているかを調査した。回答者は、プログラムを統括する立場にあった者であり、学生への聞き取りを行わなかったことは悔やんでいる。結果は提言としてまとめられ、フィンランド語の教育の有無とフィンランドにおける雇用可能性との関連などを見出すことができた。

### 3. 講演（Derricott 氏）

「QAA の評価パネルにおける学生委員の参加の意義と運用実態」

Derricott 氏の講演では、英国 QAA の学生評価委員に関し、採用や支援の手法が紹介された。

- (1) QAA の学生評価委員（前日の大学評価フォーラムの講演内容まとめ）
  - ✓ 100 名以上の学生評価委員
  - ✓ 2007 年より評価に参画
  - ✓ 正規の評価委員の地位（他の委員と同等の報酬）
  - ✓ 学生としての視点を求められることも多い
- (2) 学生評価委員の採用—スコットランドの事例
  - ✓ 募集要件
    - ・ 最低 1 年に 1 評価を担当できること
    - ・ スコットランドの高等教育機関で、過去 3 年以内に、1 年間のフルタイム学生相当の身分として在籍していたこと
    - ・ 機関（学部・研究科）レベルでの学生代表経験
      - ➔ 英国では学生ユニオン経験者が質保証に興味を持つ傾向にある
      - ➔ 日本ではこうした学生をどう確保するのか
  - ✓ 500 語以内の志望理由書の提出—自身の質保証に関する経験と、スコットランドの高等教育に対する意見を述べる
- (3) 採用者への支援・研修
  - ✓ 評価者研修への参加：
    - ・ 3 日間
    - ・ 評価シミュレーション
  - ✓ 実際の評価作業への、現地でのサポートを行う QAA メンバーの帯同
  - ✓ QAA における学生参画チームによるサポート
  - ✓ 再研修制度

(4) デリコット氏の経験

- ✓ 英国の他、ルーマニア、チェコ、スロベニアの大学およびセルビアの質保証機関の評価を経験
- ✓ 学生ならではの視点からの疑問点が挙がることが利点
- ✓ 個人的にも経験と充足度が大きい

(5) まとめ

- ✓ 学生も正規の委員として評価パネルに加わるべき
- ✓ 参加する学生は、質保証に関わった経験と教育機関毎の差異を受け入れる理解が必要
- ✓ 学生を信じれば、彼らは応える
- ✓ まず初めに試行すべき
- ✓ 学生との協働を楽しむ

続いて行われた質疑応答の内容は、以下のとおり。

Q：現在、QAA は 100 名を超える学生評価者のプールを持っているそうだが、そのうちユニオン出身でない者はどのぐらいの割合か。

A：正確な数字は分からないが、およそ 3 割程度だと思われる。博士課程在籍の学生評価者は、ユニオンと無関係である傾向が強い。

コメント（Heerens 氏）：

自分のオランダでの経験によると、同国の大学の多くは学生ユニオン自体がないか、活動が活発でない。しかし、オランダでは 80 年代から、ベルギーでも 90 年代からユニオンや評価パネルが、学生をプログラム評価の委員としてノミネートしてきている。実際、そうしてノミネートされた学生委員の 95% がユニオンと関わりはなく、ユニオン出身かどうかはあまり重要な要素ではないと考える。

（Derricott 氏）：

イングランドで増えている私立の教育機関には学生ユニオンがない。

Q：学生委員の申請書の中から、応募学生のやる気を見出すことはできるか。

A：申請という行為そのものや、学生の所属する大学への聞き取りの結果が、ある程度やる気の証明にはなる。

#### 4. 講演（Heerens 氏）

「スコットランド質における学生支援機関(sparqs)の発足と現状」

Heerens 氏からは、sparqs 設立（2003 年）の経緯、組織の概要、活動内容についての説明があった。

- (1) sparqs 設立背景
- ✓ 2002年より英国はプログラム別評価から機関別評価へ移行
  - ✓ これに伴い、スコットランドにおける質向上枠組みを整備
  - ✓ 質向上枠組みの5要素
    - 外部質保証
    - 分野別内部質保証
    - テーマ別評価
    - 情報公開
    - 学生の参画（学生の参画に対する動きは、2000年代までほとんどなかった）
  - ✓ 2003年に sparqs 設立(sparqs: Student Participation in Quality Scotland)
  - ✓ 高等教育セクター一丸となった sparqs 支援（学生による組織ではなく、学生は1ステークホルダーとして位置づけ）
- (2) sparqs 概要
- ✓ 組織体制
    - 9名の職員と12名の学生パートタイム
    - 学生、質保証機関メンバー、社会奉仕者(community worker)、学生委員指導者(course rep trainer)で構成
    - スコットランド学生ユニオンとインヴァネス・カレッジがホストとして組織
- (3) 活動内容
- ✓ 研修・支援：主に学生ユニオンの代表者に対して行う
    - 最近では直接応募する学生が減り、大学が推薦する者の数が増加している  
＝ここ5-6年の大学へのコンサルティングの成果
  - ✓ イベント(会議、ワークショップ)
  - ✓ 刊行物によるグッドプラクティス共有

その後の質疑応答の内容は、以下のとおり。

Q：欧州で sparqs に似たような組織はあるか。

A：そのような組織はない。イングランドで、複数の機関が参加する、似たようなプロジェクトはある。つい数週間前に、hefce がこのプロジェクトを1つのユニットとして、助成期間を延長することを発表したばかりだ。

sparqs がスコットランド政府からの公的助成を受けている理由は、この組織が学生ユニオンのみで構成されていないからだ。ユニオンが行う支援や研修は、大学からは歓迎されない。また、sparqs のサービスは無料で提供される。

コメント（Kekäläinen 氏）：

QAA は大学の質保証に対するコンサルティングはできないのに対し、sqarks はコンサルティングをしているという点が非常に興味深い。

以上